

高度な工学知識を兼ね備えた エンジニア・パイロット®になろう。

先進工学部 機械理工学科 航空理工学専攻

POINT 1 →
工学の知識と飛行操縦スキルを修得し、
「エンジニア・パイロット®」になる

エンジニアを養成する機械理工学科に設置される本専攻。機械理工学科のカリキュラムを履修しながら、パイロットになるための飛行操縦訓練を積んでいきます。将来「エンジニア・パイロット®」として国内外の航空業界で活躍できるスキルが身につきます。

※「エンジニア・パイロット」は工学院大学の登録商標です。

POINT 2 →
エアラインパイロットをめざすコースをはじめ
目的やニーズに応じた多彩な訓練コースを設置

日本航空(株)(JAL)と連携した高品質な養成課程で訓練を行う「エアラインパイロット指定校推薦コース」をはじめ、国内のみで訓練を行う「国内ライセンスコース」や、海外+国内で訓練を行うコースなど、様々なニーズに対応した多彩な訓練コースを設置しています。

固定翼と回転翼の違い

航空機は翼の違いによって大別されます。翼と機体が一体となっている航空機が固定翼。飛行機やグライダーなどが該当します。回転翼はヘリコプターに代表されるプロペラ状の翼を持つ航空機を指します。



航空理工学専攻で取得をめざす資格



固定翼



回転翼



日本国内ライセンスに
書き換え可能

 ピストン/タービン	 ピストン/タービン	 ピストン/タービン	 タービン		 タービン
航空無線通信士	航空英語能力証明	ICAO 自家用操縦士 ※1	FAA 事業用操縦士 ※2	FAA 計器飛行証明 ※2	FAA CFI (飛行教官) ※2
航空従事者国家資格のうちの1つ。等級の区分および限定はない。航空機に乗り込んで無線設備の操作(受信を含む)を行うに必要な資格。	民間航空における事実上の国際言語である航空英語のスキルを修得していることの証。日本と外国の間を航行するのに必要。	ICAO(国際民間航空機関)加盟国発行の操縦士の資格。報酬を受けずに無償の運航を行う自家用航空機の操縦に必要な資格。	米国連邦航空局(Federal Aviation Administration)が発行する操縦士の資格。計器飛行証明(IFR)や認定インストラクター(CFI)の取得によって、米国のエアラインへの就職も可能。	米国連邦航空局が発行する高度や位置、針路の測定をする計器を使用した飛行に必要な資格。	米国で無資格者に飛行訓練を行うことができる資格。
【生かせる仕事】 ・航空会社のパイロット ・航空管制官 など	【生かせる仕事】 ・航空会社のパイロット ・航空管制官 など	【生かせる仕事】 ・自社機の操縦	【生かせる仕事】 ・アメリカで旅客機のパイロット など	【生かせる仕事】 ・アメリカで旅客機のパイロット など	【生かせる仕事】 ・アメリカでフライトインストラクター など

※1 留学時の留学国・海外情勢等の事情により実施できないこともあります。【基本はFAA(米国)での実施を想定しています】

※2 留学時の米国や米国連邦航空局、提携フライトスクールおよび海外情勢等の事情により実施できないこともあります。

これまで狭き門とされてきたパイロットへの道ですが、世界的な航空需要の増大に伴ってニーズが高まる今、空へのあこがれを実現させる絶好の機会。費用や語学力などのハードルも、独自のカリキュラムでバックアップします。

POINT 3 →
日本国内と海外で飛行操縦訓練
グローバル感覚も養われる

実際の飛行操縦訓練は、固定翼と回転翼のいずれも海外*で行うことができるコースを併設。日本国内とは自然や気候の異なる環境下を飛び、実践を通じてたしかな操縦技術を学ぶこともできるほか、語学力や海外環境への適応力など、国際社会等で活躍するための素地も養われます。

*留学時の留学国・海外情勢等により実施できないこともあります。

*海外提携のフライトスクール入校に際し、英語の能力証明書等は必要ありません(エアラインパイロット指定校推薦コースを除く)が、海外提携フライトスクールが実施する英会話能力確認試験に合格する必要があります。また、資格取得のための飛行訓練および各種試験(筆記、口述、実技、無線等)は、すべて英語で行われ、かつ、渡航前の事前教育は主に英文テキストが用いられるなど、相当の英語力が必要となるため、渡航前より推奨英語能力レベルを設定しています。

POINT 4 →
専門知識を生かすことで
さまざまな進路が拓ける

機械理工学科のカリキュラムを履修するため、卒業後の進路は多岐にわたります。海外や国内の訓練はハイブリッド留学®期間や長期休暇中に行われるので、無理なく学科の学びを深められます。航空業界では、パイロットだけでなくさまざまな進路が考えられます。プロのパイロットをめざす人は自家用操縦士免許を取得し、その後、事業用操縦士免許の取得をめざします。また、自家用操縦士免許取得後に卒業研究に取り組み機械系のエンジニアになる道もあります。まずは、パイロットの第一歩となる自家用操縦士免許の資格取得をめざしましょう!さまざまな理由でパイロットへの道を中断することになっても、就職や大学院進学などの進路を選択することも可能です。

ハイブリッド留学®プログラムを活用

海外および国内の訓練では、本学独自のハイブリッド留学®プログラムを適用※3。機械理工学科のカリキュラムの妨げにならない時期に設定しているので、安心して訓練に取り組めます。

*「ハイブリッド留学」は工学院大学の登録商標です。

 ピストン	 タービン			 タービン
JCAB 航空従事者技能証明 (自家用操縦士) ※4	JCAB 航空従事者技能証明 (事業用操縦士) ※4	JCAB 多発限定変更 ※4	JCAB 計器飛行証明 ※4	JCAB 操縦教育証明 (飛行教官) ※4
航空従事者国家資格のうちの1つで、報酬を受けずに無償の運航を行う航空機の操縦に必要な資格。ICAO自家用資格は日本の法規の試験をパスすればJCAB自家用に書き換え可能。	航空従事者国家資格のうちの1つで、報酬目的での運航といったプロパイロットとして必要最低限の資格です。	エンジンの数が一つのものを単発、それ以上のものを多発と呼び、小型機に多い単発を取得した後、多発へと変更することができます。	高度や位置、針路の測定をする計器を使用した飛行に必要な資格。	JCABが発行する日本国内で無資格者に飛行訓練を施す際に必要な資格。
【生かせる仕事】 ・自社機の操縦	【生かせる仕事】 ・エアラインのパイロット	【生かせる仕事】 ・旅客機の操縦 など	【生かせる仕事】 ・エアラインのパイロット	【生かせる仕事】 ・日本で飛行教官 など

※3 操縦訓練を行うには本学が定めるハイブリッド留学®プログラムの参加要件を満たす必要があります。

※4 JCAB(Japan Civil Aviation Bureau)とは日本の国土交通省航空局のこと。

多様な選択肢があるから、自分の「やりたい」がきっと見つかる。

START 

エンジニアだけでなくパイロットにも興味がある

YES

NO

機械理工学科で学び、
機械系エンジニアをめざす！

空を飛ぶための
資格・免許がほしい

NO

体験フライトだけでも可能！
「フライト経験のあるエンジニア」をめざす学生向けに、1年次に飛行操縦体験を実施しています。パイロットの立場や機体の実物を間近にし、高い専門性獲得への動機づけにもなります。

訓練費用を抑えて
エアラインパイロットを
めざしたい

YES

NO

エアラインの
パイロットになりたい

YES

NO

たくさんの人を乗せて
空を飛ばしたい (主に固定翼)

たとえば…
・エアラインの機長として世界の空をフライト
・軽飛行機で離島へ

YES

NO

人の暮らしや安全を
空から支えたい (主に回転翼)

たとえば…
・ドクターヘリで緊急搬送
・警察や自治体で非常時に活躍
・空から情報を伝える報道ヘリ

YES

NO

日本航空(株)(JAL)と
ともに設計した
高品質な訓練を受け、
同社のパイロットをめざす

YES

NO

訓練をするなら
日本の空？
それとも海外の空？

日本！

海外！

未来のパイロットを
養成したい！
米国で活躍してみたい！

NO

YES

趣味で乗ったり、自社機の操縦の機会があるかも！
ビジネスシーンでも活躍できる

全てのコースにおいて、自家用操縦士免許の資格取得のみで訓練を終了することができます。事業用操縦士免許の取得までめざすことを考えていない人にはお勧めです。プライベート機はもちろんのこと、企業の自社機の操縦など、経験を生かしてビジネスシーンで活躍することも可能です。海外自家用ライセンスは、取得後、日本の自家用ライセンスに書き換えが可能です。日本の学科試験(法規のみ)をパスすれば、日本の空も飛ぶことができます。

日本航空(株)(JAL)のパイロットをめざすなら

エアラインパイロット指定校推薦コース ※1 

圧倒的に低く抑えた訓練費でチャレンジできる！

日本航空(株)(JAL) との自社養成パイロット採用選考推薦制度を活用し、同社のパイロットをめざすコースです。本学が提携する米国フライトスクールで米国の自家用操縦士ライセンスを取得し、その後行われる適性確認フライト(適性確認)に合格すると、本学からの推薦によりJALの自社養成パイロット採用選考に挑戦することが可能となります。

➡ P.21

全て日本での訓練で資格取得をめざすなら

JCAB事業用国内ライセンスコース  

自身のペースでJCAB事業用および飛行教官資格の取得を国内訓練のみでめざす！

JCAB事業用までを全て日本の提携フライトスクールで訓練を受け資格取得をめざすコースです。固定翼では、航空会社のパイロットや軽飛行機の操縦士、回転翼なら、社会的に注目を集めているドクターヘリをはじめ、警察、自治体など、人びとの暮らしや安全を支えるような仕事に携わることができます。

➡ P.5

**JCAB事業用国内ライセンス
指定養成コース** 

指定航空従事者養成施設で資格取得をめざす

フライトシミュレーターや新機材を効果的に利用し、指定航空従事者養成施設で事業用操縦士に求められる資格取得をめざすコースです。

➡ P.7

海外での訓練も併用しながら資格取得をめざすなら

**JCAB事業用海外ライセンス
A・Bコース** ※1  

固定翼、回転翼ともに、2～4年次(コースにより異なる)に海外で飛行訓練を受け、本学提携の国内フライトスクールの日米一貫教育課程への入学資格等を取得します。その後、国内のフライトスクールで継続して訓練を受けJCAB事業用資格の取得をめざします。訓練費用の抑制に繋がるとともに、国際感覚も磨かれます。

➡ P.9・11

米国で飛行教官になるなら(FAAの事業用資格取得後)

FAA事業用・CFIコース ※1  

米国が発行する飛行教官の資格取得をめざすコース。米国内のフライトスクールの飛行教官への道が開かれています。近年、日米共に飛行教官も不足しており、需要は高まっています。米国の事業用資格取得後、追加の飛行時間や各試験を経て資格取得をめざします。

日本国内の飛行教官(操縦教育証明)資格の取得をめざす場合、JCAB国内、海外ライセンスA・BコースでJCAB事業用資格を取得した後、追加の飛行訓練や各試験を経て資格取得をめざします。

➡ P.13

JCAB事業用および飛行教官資格取得を国内訓練のみでめざす

JCAB 事業用 国内ライセンスコース

本コース申込に際しての重要注意事項（必要条件）

固定翼（本田航空）コース

本田航空への入学に際し、入学試験（書類審査、適性検査等）があります。

- 1年次12月（本田航空入学試験出願時）までに、TOEIC® Listening & Reading Test 400点以上又は公益財団法人日本英語検定協会実用英語技能検定準2級以上の英語能力を有していること。
- 1年次12月（本田航空入学試験出願時）までに、航空身体検査証明第1種相当の基準に適合する見込みがあること。（本田航空指定医療機関での受診が必要）
- 航空特殊無線技士以上の資格を入学時までに取得すること。
- 操縦訓練の実施に伴い本田航空への入学および契約手続きが必要です。

回転翼（第一航空）コース

- 航空特殊無線技士以上の資格を入学時までに取得すること。
- 操縦訓練の実施に伴い第一航空への入学および契約手続きが必要です。

■訓練時間・期間は天候および個人の技量等により変動する場合があります。また、記載の飛行訓練時間は、あくまで平均的な訓練時間です。
訓練時間は修得状況により個人差があり、追加費用が発生する場合があります。

■記載の飛行訓練内容、飛行訓練時間・期間および訓練費は、2024年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。

取得できる免許・資格



- JCAB自家用資格
- JCAB事業用・多発限定変更・計器飛行証明・飛行教官（操縦教育証明）資格



- JCAB自家用ピストン資格
- JCAB事業用・飛行教官（操縦教育証明）タービン資格

1年次

10-1月

訓練開始に向けて、各種の学科試験対策や無線資格取得に向けた学習を各自で実施

2年次

3年次

4年次

3月
学士号取得

卒業後 1年目

2年目

8月 9月



12月
本田航空
入学試験

2-3月

6-8月

2月

8月

2-3月

Aタイプ

3年次までの成績、飛行訓練状況等を踏まえ、4年次以降の飛行訓練の時期が変わります。

Bタイプ
4-5月

4-8月

9-12月

1-3月

4-5月

本田航空（大分空港）での飛行訓練
JCAB自家用(単発)を取得
飛行訓練※1：TOTAL122時間
訓練費：¥12,577,477(税込)

まずはJCAB自家用(単発)免許の取得をめざそう！

POINT
フライト体験後に、今後の進路を決定できる！

本田航空（大分空港）での飛行訓練
JCAB事業用を取得
飛行訓練※1：TOTAL112時間●
訓練費A：¥11,131,934(税込)

本田航空（大分空港）での飛行訓練※2-3
JCAB事業用を取得
飛行訓練※1：TOTAL112時間●
訓練費：訓練費Aに含まれます

本田航空（大分空港）での飛行訓練
JCAB事業用を取得
飛行訓練※1：TOTAL112時間●
訓練費：訓練費Aに含まれます

本田航空（大分空港）での飛行訓練
JCAB多発限定変更を取得
飛行訓練※1：TOTAL29時間
訓練費：¥4,547,313(税込)

本田航空（大分空港）での飛行訓練
JCAB計器飛行証明を取得
飛行訓練※1：TOTAL46.5時間
訓練費：¥7,439,923(税込)

航空業界への就活(卒業後)
エアライン、航空機運営会社、飛行教官
(要追加飛行経験+資格試験合格)等

4-6月

7-10月

11-3月

本田航空（大分空港）での飛行訓練
JCAB事業用を取得
飛行訓練※1：TOTAL112時間●
訓練費：訓練費Aに含まれます

本田航空（大分空港）での飛行訓練
JCAB多発限定変更を取得
飛行訓練※1：TOTAL29時間
訓練費：¥4,547,313(税込)

本田航空（大分空港）での飛行訓練
JCAB計器飛行証明を取得
飛行訓練※1：TOTAL46.5時間
訓練費：¥7,439,923(税込)

航空業界への就活(卒業後)
エアライン、航空機運営会社、飛行教官
(要追加飛行経験+資格試験合格)等

POINT
卒業後、何年間かお金を貯めてからでも可能！経済状況にあわせて段階的に取得もできます

POINT
事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官（操縦教育証明）もめざせます

POINT
卒業後、何年間かお金を貯めてからでも可能！経済状況にあわせて段階的に取得もできます

4-11月

第一航空（八尾空港）での飛行訓練

航空業界への就活

JCAB事業用(タービン)を取得
飛行訓練※4：TOTAL100時間●
訓練費：訓練費Bに含まれます

自治体、消防・警察、ヘリコプター運営会社、飛行教官（要追加飛行経験+資格試験合格）等

POINT
事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官（操縦教育証明）もめざせます

固定翼の注意事項

- ※1 飛行訓練には飛行訓練装置による訓練時間を含みます。また、各種資格取得の課程で学科教育があります。
 - ※2 3年次までの成績、飛行訓練状況等を踏まえ、本田航空および本学が協議のうえ、許可を得た者のみ選択可能。
 - ※3 4年次では、本田航空と本学を2～3週間ごとに行き来しての飛行訓練を実施します。授業や卒業研究で大学に帰京している期間は操縦訓練期間から除外されます。
- =飛行訓練時間はどのタイプを選択しても、合計で112時間です。重複するものではありません。

固定翼か回転翼、およびコースの決定



2-3月

6-8月

2-3月

8月

2-3月

第一航空（八尾空港）での飛行訓練
JCAB自家用(ピストン)を取得
飛行訓練※4：TOTAL80時間
訓練費：¥7,056,500(税込)

まずはJCAB自家用(ピストン)免許の取得をめざそう！

第一航空（八尾空港）での飛行訓練
JCAB事業用(タービン)を取得
飛行訓練※4：TOTAL100時間●
訓練費B：¥12,628,000(税込)

回転翼の注意事項

- ※4 各種資格取得の課程で学科教育があります。
- =飛行訓練時間は合計で100時間です。重複するものではありません。

JCAB 事業用 国内ライセンス指定養成コース

本コース申込に際しての重要注意事項（必要条件）

本田航空への入学に際し、入学試験（書類審査、適性検査等）があります。

- 1年次12月（本田航空入学試験出願時）までに、TOEIC® Listening & Reading Test 400点以上又は公益財団法人日本英語検定協会実用英語技能検定準2級以上の英語能力を有していること。
 - 1年次12月（本田航空入学試験出願時）までに、航空身体検査証明第1種相当の基準に適合する見込みがあること。（本田航空指定医療機関での受診が必要）
 - 航空特殊無線技士以上の資格を入学時までに取得すること。
 - 操縦訓練の実施に伴い本田航空への入学および契約手続きが必要です。
 - 訓練時間・期間は天候および個人の技量等により変動する場合があります。また、記載の飛行訓練時間は、最短期間となっています。訓練時間は修得状況により個人差があり、追加費用が発生する場合があります。○ただし、本コースは指定航空従事者養成施設での訓練となり、追加訓練に対する許容時間が各課程で定められています。許容時間内で課程を修了できなかった場合は、コースアウト*となります。
 - 学科試験、実技審査ともに、2回での合格が課せられます。2回目で不合格となった場合はコースアウト*となります。
 - 記載の飛行訓練内容、飛行訓練時間・期間および訓練費は、2024年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。
- *コースアウト後に法令で定められた飛行経歴を充足することで、JCAB試験を受験しライセンスを取得することは可能です。

取得できる免許・資格



■JCAB事業用・多発限定変更・計器飛行証明・飛行教官（操縦教育証明）資格

1年次

10-1月

訓練開始に向けて、各種の学科試験対策や無線資格取得に向けた学習を各自で実施

2年次

3年次

4年次

3月
学士号取得

卒業後



8月

飛行操縦体験（任意参加）

実際に飛行教官が操縦する飛行機やヘリコプターに同乗し、フライトを体験。まずは、空を飛ぶということを身体で感じます。

12月

本田航空
入学試験

2-3月

本田航空（大分空港）での飛行訓練

事業用操縦士課程 (PHASE 1)
飛行訓練※1：TOTAL79.5時間
訓練期間：約4.5ヶ月
訓練費：¥8,106,626(税込)

6-8月

2月 3月

本田航空（大分空港）での飛行訓練

事業用操縦士課程 (PHASE 2)
飛行訓練※1：TOTAL75.5時間
訓練期間：約4.0ヶ月
訓練費：¥7,451,485(税込)

8月

2-3月

Aタイプ

3年次までの成績、飛行訓練状況等を踏まえ、4年次以降の飛行訓練の時期が変わります。

POINT

事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官（操縦教育証明）もめざせます

4-10月

本田航空（大分空港）での飛行訓練

事業用操縦士課程 (PHASE 3)
飛行訓練※1：TOTAL41時間
訓練期間：約3.5ヶ月
訓練費：¥6,082,758(税込)

本田航空（大分空港）での飛行訓練

計器飛行証明課程
飛行訓練※1：TOTAL40時間
訓練期間：約3.5ヶ月
訓練費：¥6,245,965(税込)

航空業界への就活（卒業後）
エアライン、航空機運営会社、飛行教官（要追加飛行経歴+資格試験合格）等

Bタイプ

4-5月

本田航空（大分空港）での飛行訓練 ※2・3

事業用操縦士課程 (PHASE 3)
飛行訓練※1：TOTAL41時間
訓練期間：約3.5ヶ月
訓練費：¥6,082,758(税込)

POINT

事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官（操縦教育証明）もめざせます

4-7月

本田航空（大分空港）での飛行訓練

計器飛行証明課程
飛行訓練※1：TOTAL40時間
訓練期間：約3.5ヶ月
訓練費：¥6,245,965(税込)

航空業界への就活（卒業後）
エアライン、航空機運営会社、飛行教官（要追加飛行経歴+資格試験合格）等

Cタイプ

4-9月

本田航空（大分空港）での飛行訓練 ※2・3

事業用操縦士課程 (PHASE 3)
飛行訓練※1：TOTAL41時間
訓練期間：約3.5ヶ月
訓練費：¥6,082,758(税込)

本田航空（大分空港）での飛行訓練 ※2・3

計器飛行証明課程
飛行訓練※1：TOTAL40時間
訓練期間：約3.5ヶ月
訓練費：¥6,245,965(税込)

航空業界への就活
エアライン、航空機運営会社、飛行教官（要追加飛行経歴+資格試験合格）等

POINT

事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官（操縦教育証明）もめざせます

指定航空従事者養成施設とは？

航空法施行規則に定められた技術基準に適合し、国土交通省から指定を受けた操縦士等の養成施設であり、その課程を修了した者に対しては、国による実地試験の全部又は一部を行わないことができるとされています。

※1 飛行訓練には飛行訓練装置による訓練時間を含みます。また、事業用操縦士、計器飛行証明課程それぞれにおいて、学科教育があります。

※2 3年次までの成績、飛行訓練状況等を踏まえ、本田航空および本学が協議のうえ、許可を得た者のみ選択可能。

※3 4年次では、本田航空と本学を2～3週間ごとに行き来しての飛行訓練を実施します。授業や卒業研究で大学に帰京している期間は操縦訓練期間から除外されます。

1 年次

海外提携フライトスクールが実施する
英会話能力確認試験合格後、渡米までの期間、
FAA 自家用ライセンス取得のための
学科試験対策や英語学習を各自で実施
(訓練コースごとに特別授業等を実施する場合があります)

2 年次

6-8月
先進工学部
ハイブリッド留学®

3年次

4 年次

3月
学士号取得

卒業後

POINT
卒業後、何年間かお金を貯めてからでも可能! 経済状況にあわせて段階的に取得もできます

事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官(操縦教育証明)もめざせます

固定翼



11月 12月

★飛行訓練参加に伴う
推奨英語能力レベル
TOEIC®(L&R)500点以上

飛行操縦体験（任意参加）

実際に飛行教官が操縦する飛行機やヘリコプターに同乗し、フライトを体験。
まずは、空を飛ぶということをも身体で感じます。

★飛行訓練参加に伴う
推奨英語能力レベル
TOEIC®(L&R) 600点以上

POINT
フライト体験後に、
今後の進路を決定できる！

固定翼の注意事項

※1 飛行訓練には飛行訓練装置による訓練時間を含みます。
また、各種資格取得の課程で学科教育があります。

※2 3年次までの成績、飛行訓練状況等を踏まえ、許可を得た者のみ選択可能。

固定翼か回転翼、

12月



米国提携
フライトスクール
による英会話能力
確認試験

6-8月

まずはFAA自家用（タービン）
免許の取得をめざそう！

アメリカでの飛行訓練

アメリカの提携フライトスクールにて
FAA自家用(タービン)を取得
飛行訓練※3：**TOTAL**ピストン**56**時間＋タービン**10**時間
訓練費：US\$ 43,000

POINT
FAA自家用は、日本の自家用
ライセンスに書き換え可（た
だし、学科試験（法規のみ）
の合格が必要）

アメリカでの飛行訓練
アメリカの提携フライトスクールにて
日米一貫教育課程入学資格を取得
(FAA自家用免許はタービン飛行後に取得)
飛行訓練^{※3}：**TOTAL**ピストン(機長時間付け)**35時間**
訓練費：US\$ 16,000

2-3月

POINT
日本と海外の空を経験することで、気候・環境の違いも体感

4-11月

国内提携校での飛行訓練 ※3
第一航空（8ヶ月間／八尾空港）にて**JCAB事業用（タービン）**を取得
訓練費：¥7,766,000(税込)

航空業界への就活

自治体、消防・警察、ヘリコプター運営会社、
飛行教官(要追加飛行経験+資格試験合格)等

POINT
事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官（操縦教育証明）もめざせます

固定翼

●本田航空への入学に際し、入学試験（書類審査、適性検査等）があります。

●本田航空入学試験出願時までに、TOEIC Listening & Reading Test 400点以上又は公益財団法人日本英語検定協会実用英語技能検定準2級以上の英語能力を有していること。

●本田航空入学試験出願時までに、航空身体検査証明第1種相当の基準に適合する見込みがあること。（本田航空指定医療機関での受診が必要）

●航空特殊無線技士の資格取得および航空从业者等学科試験（自家用操縦士の「法規」科目）の合格が入学時までに必要です。

●操縦訓練の実施に伴い本田航空への入学および契約手続きが必要です。

回轉翼

●航空特殊無線技士以上の資格取得および航空従事者等学科試験（自家用操縦士の「法規」科目）の合格が入学時まで必要です。

●操縦訓練の実施に伴い第一航空への入学および契約手続きが必要です。

※訓練時間・期間とは候および個人の技量等により変動する場合があります。また、記載の飛行訓練時間は、あくまでも平均的な訓練時間です。訓練時間は修得状況により個人差があり、追加費用が発生する場合があります。

※留学時の米国や米国連邦航空局、提携飛行スクールおよび海外情勢等の事情により実施がでない場合があります。※

※渡航に際し、ビザの取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。※

※渡航の際に必要なビザ申請に際し、操縦訓練費用（総額）や滞在中に必要な生活費など、米国滞在中のあらゆる費用を賄う充分な資金があることを証明する預金残高証明書の実提出が必要です。

※渡航（米国国内の操縦訓練）に際し、FAA Medical Certificates(3rd class以上)の取得が必要で、診断書の取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。※

※渡航（米国国内の操縦訓練）に際し、Flight Training Security Program(FTSP)にフライトトレーニングの許可申請が必要で、飛行許可が下りない場合は本コースで訓練を受けることができません。※

※海外提携のフライトスクールに際し英語の能力証明書は必要ありませんが、海外提携フライトスクールが実施する英会話能力確認試験に合格する必要があります。

また、資格取得のための飛行訓練および各種試験（筆記、口述、実技、無線等）はすべて英語で行われ、かつ、渡航前の事前教育も英語が主となるため、相当の英語力が求められるため、
渡航前より推奨英語能力レベル★を設定しています。

※記載の飛行訓練コース、飛行訓練時間・期間および訓練費は、2024年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。

※その他、渡航先の入国条件がクリアにならない場合には、本コースは継続できません。

※そのような場合、国内ライセンスコースを活用しての資格取得をめざすこととなります。これに伴い訓練費用は増額となります。



計器飛行証明・飛行教官（操縦教育証明）資格



■JCAB事業用・飛行教官（操縦教育証明）タービン資格

JCAB 事業用 海外ライセンスBコース

1年次 11-5月
海外提携フライトスクールが実施する
英会話能力確認試験合格後、渡米までの期間、
ICAO 自家用ライセンス取得のための
学科試験対策や英語学習を各自で実施
(訓練コースごとに特別授業等を実施する場合があります)

2年次 6-8月
先進工学部
ハイブリッド留学*

3年次

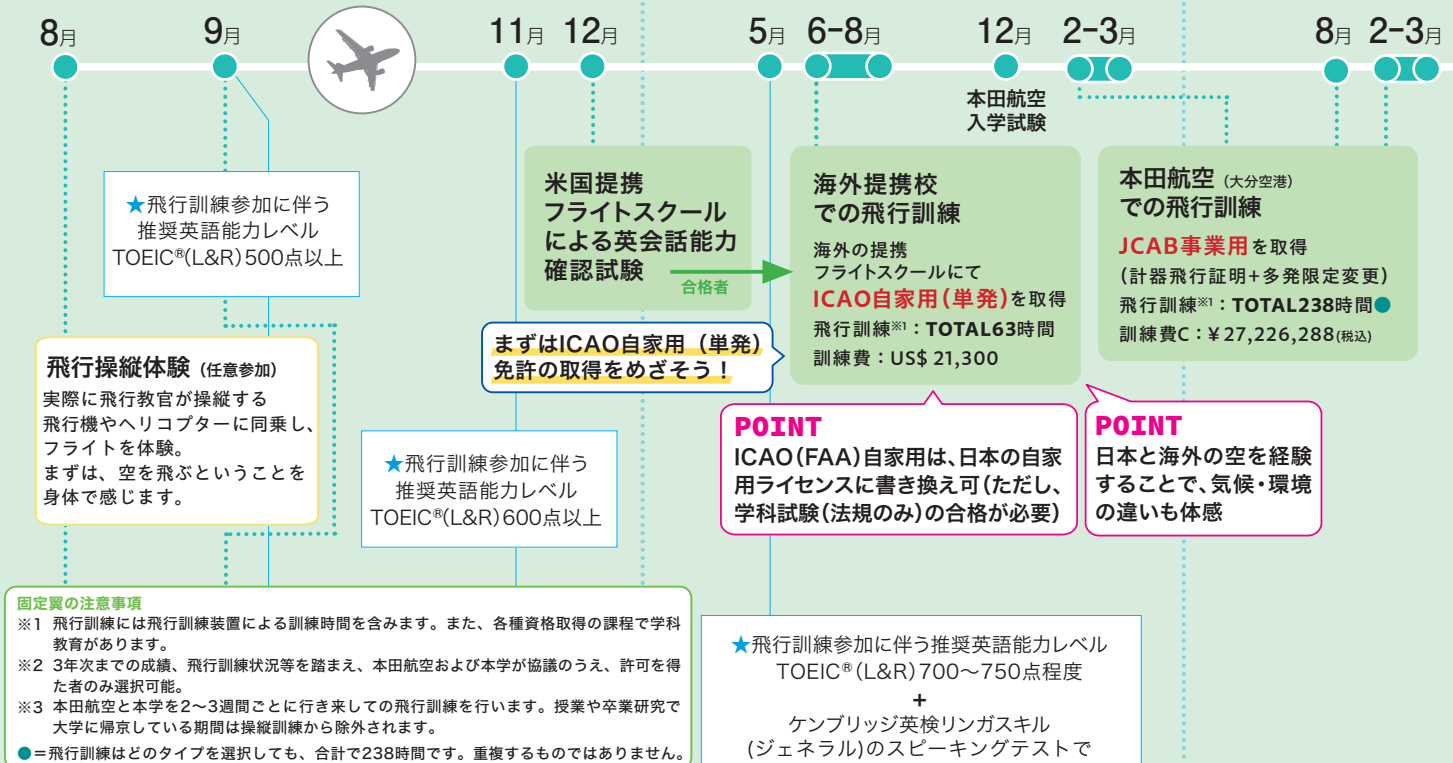
4年次

3月
学士号取得

卒業後

本コース申込に際しての重要注意事項（必要条件）

固定翼	回転翼
本田航空への入学に際し、入学試験（書類審査、適性検査等）があります。 ●本田航空入学試験出願時までに、TOEIC Listening & Reading Test 400点以上又は公益財団法人日本英語検定協会実用英語技能検定準2級以上の英語能力を有していること。 ●本田航空入学試験出願時までに、航空身体検査証明第1種相当の基準に適合する見込みがあること。（本田航空指定医療機関での受診が必要） ●航空特殊無線技士以上の資格取得および航空従事者等学科試験（自家用操縦士の「法規」科目）の合格が入学時までに必要です。 ●操縦訓練の実施に伴い本田航空への入学および契約手続きが必要です。 また、記載の飛行訓練時間は、あくまで平均的な訓練時間です。訓練時間は修得状況により個人差があり、追加費用が発生する場合があります。 ■訓練時間・期間は天候および個人の技量等により変動する場合があります。 ■留学時の米国や米国連邦航空局、提携フライトスクールおよび海外情勢等の事情により実施ができない場合があります。※ ■渡航に際し、ビザの取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。※ ■渡航の際に必要なビザ申請において、操縦訓練費用（総額）や滞在期間中に必要な生活費など、米国滞在中のあらゆる費用を賄う充分な資金があることを証明する預金残高証明書の提出が必要です。 ■渡航（米国内での操縦訓練）に際し、FAA Medical Certificates (3rd class以上) の取得が必要です。診断書の取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。※ ■渡航（米国内での操縦訓練）に際し、Flight Training Security Program (FTSP) にフライトトレーニングの許可申請が必要です。飛行許可が下りない場合は本コースで訓練を受けることができません。※ ■海外提携のフライトスクール入校に際し英語の能力証明書等は必要ありませんが、海外提携フライトスクールが実施する英会話能力確認試験に合格する必要があります。 また、資格取得のための飛行訓練および各種試験（筆記、口述、実技、無線等）はすべて英語で行われ、かつ、渡航前の事前教育も英語が主となるなど、相当の英語力が求められるため、渡航前より推奨英語能力レベル★を設定しています。 ■記載の飛行訓練内容、飛行訓練時間・期間および訓練費は、2024年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。 ■その他、渡航先の入国条件がクリアにならない場合には、本コースは継続できません。 ※そのような場合、国内ライセンスコースを活用しての資格取得をめざすことになります。これに伴い訓練費用は増額となります。	●航空特殊無線技士以上の資格取得および航空従事者等学科試験（自家用操縦士の「法規」科目）の合格が入学時までに必要です。 ●操縦訓練の実施に伴い第一航空への入学および契約手続きが必要です。 ■訓練時間・期間は天候および個人の技量等により変動する場合があります。 ■留学時の米国や米国連邦航空局、提携フライトスクールおよび海外情勢等の事情により実施ができない場合があります。※ ■渡航に際し、ビザの取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。※ ■渡航の際に必要なビザ申請において、操縦訓練費用（総額）や滞在期間中に必要な生活費など、米国滞在中のあらゆる費用を賄う充分な資金があることを証明する預金残高証明書の提出が必要です。 ■渡航（米国内での操縦訓練）に際し、FAA Medical Certificates (3rd class以上) の取得が必要です。診断書の取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。※ ■渡航（米国内での操縦訓練）に際し、Flight Training Security Program (FTSP) にフライトトレーニングの許可申請が必要です。飛行許可が下りない場合は本コースで訓練を受けることができません。※ ■海外提携のフライトスクール入校に際し英語の能力証明書等は必要ありませんが、海外提携フライトスクールが実施する英会話能力確認試験に合格する必要があります。 また、資格取得のための飛行訓練および各種試験（筆記、口述、実技、無線等）はすべて英語で行われ、かつ、渡航前の事前教育も英語が主となるなど、相当の英語力が求められるため、渡航前より推奨英語能力レベル★を設定しています。 ■記載の飛行訓練内容、飛行訓練時間・期間および訓練費は、2024年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。 ■その他、渡航先の入国条件がクリアにならない場合には、本コースは継続できません。 ※そのような場合、国内ライセンスコースを活用しての資格取得をめざすことになります。これに伴い訓練費用は増額となります。
取得できる免許・資格 ■ICAOおよびJCAB自家用資格 ■JCAB事業用・多発限定変更・計器飛行証明・飛行教官（操縦教育証明）資格	取得できる免許・資格 ■ICAOおよびJCAB自家用タービン資格 ■JCAB事業用・飛行教官（操縦教育証明）タービン資格



固定翼の注意事項

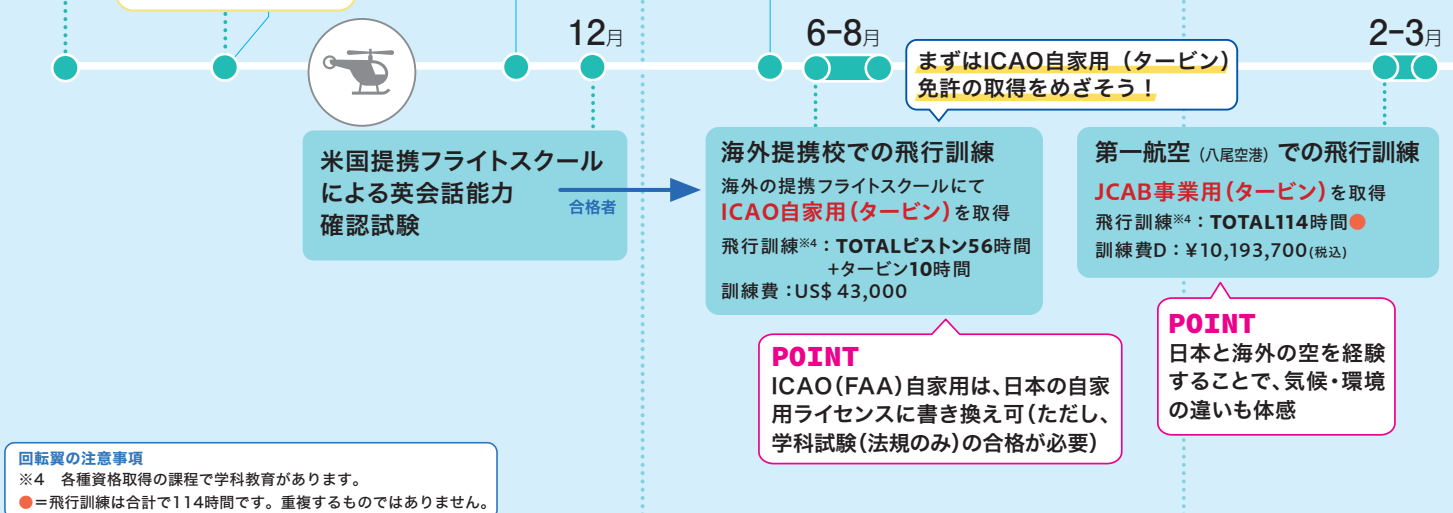
※1 飛行訓練には飛行訓練装置による訓練時間を含みます。また、各種資格取得の課程で学科教育があります。

※2 3年次までの成績、飛行訓練状況等を踏まえ、本田航空および本学が協議のうえ、許可を得た者のみ選択可能。

※3 本田航空と本学を2〜3週間ごとに行き来しての飛行訓練を行います。授業や卒業研究で大学に帰京している期間は操縦訓練から除外されます。

●=飛行訓練はどのタイプを選択しても、合計で238時間です。重複するものではありません。

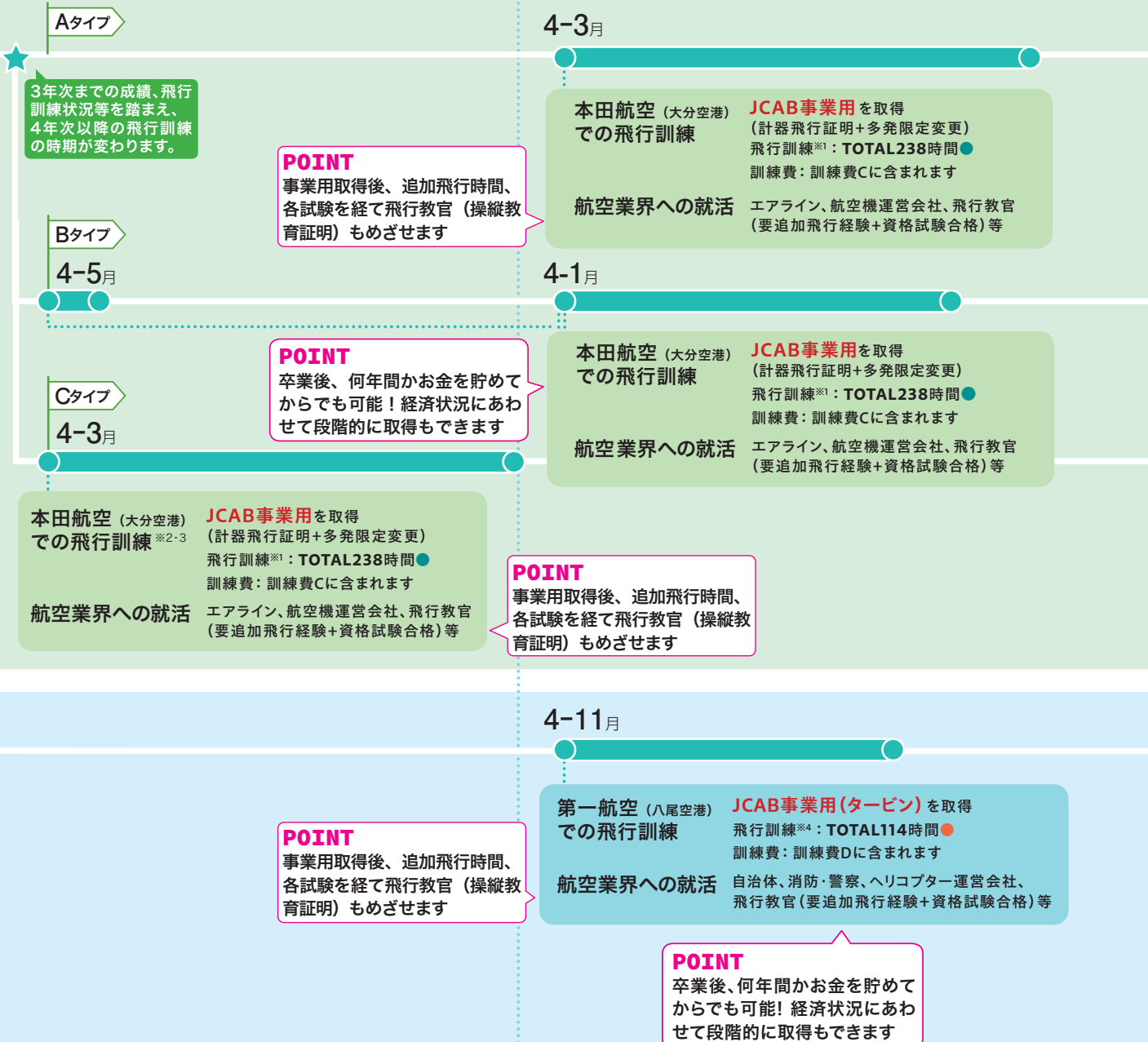
固定翼か回転翼、およびコースの決定



回転翼の注意事項

※4 各種資格取得の課程で学科教育があります。

●=飛行訓練は合計で114時間です。重複するものではありません。



POINT
事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官（操縦教育証明）もめざせます

POINT
卒業後、何年間かお金を貯めてからでも可能！経済状況にあわせて段階的に取得もできます

POINT
事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官（操縦教育証明）もめざせます

POINT
事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官（操縦教育証明）もめざせます

POINT
卒業後、何年間かお金を貯めてからでも可能！経済状況にあわせて段階的に取得もできます

飛行訓練費用

【飛行訓練費用に関する注意事項】

※記載の費用は、2024年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。

※訓練時間・期間は、天候および個人の技量等により変動します。それに伴い、訓練費用や滞在費、各種保険料等も増額（追加費用が発生）します。
また、訓練にかかる諸経費は、物価、航空燃料費の上昇および為替レートの変動等の事情により、追加費用が発生する場合があります。

※記載の費用に以下の内容は含まれません。一部試験費用、航空身体検査受診費用・FAA Medical Certificates取得費、ビザ取得費、フィンガープリント費用、航空機操縦練習許可申請にかかる費用、国内・海外の訓練地までの移動交通費（航空運賃等）、国内提携校の滞在費（水道光熱費含む）、海外旅行保険代、任意加入の保険代、訓練滞在中の日々の食事代、テキスト代、教材費、制服代、操縦訓練参加に伴う各種の事前準備講座受講料等。

※移動交通費（航空運賃等）や海外旅行保険代、ビザ取得費等は渡航ごとに必要です。

飛行訓練費用＋経費一覧



固定翼

取得をめざす資格				資格取得までの訓練費※1	4年間の大学授業料 【非課税】(640万円想定)	合計(概算)※3
JCAB事業用 国内ライセンスサーコース (P.5)						
JCAB自家用 (単発) + JCAB事業用 (事業用+多発限定+計器飛行証明)				¥ 35,696,647 (税込)	¥6,400,000	¥42,096,647 (税込)
JCAB事業用 国内ライセンスサー指定養成コース (P.7)						
JCAB事業用 (事業用操縦士課程+計器飛行証明課程)				¥ 27,886,834 (税込)	¥6,400,000	¥ 34,286,834 (税込)
JCAB事業用 海外ライセンスサーA・Bコース (P.9、11)						
FAA自家用 (単発)	FAA自家用はJCAB自家用に書き換え可 (ただし、学科試験【法規のみ】の合格が必要)			US\$21,300※2(¥3,195,000)		¥9,595,000
JCAB事業用 海外ライセンスサーAコース (P.9)				US\$21,300※2(¥3,195,000) [FAA自家用]		
FAA自家用 (単発)	+	日米一貫教育課程入学資格 取得のための米国訓練費		+		¥14,680,000
FAA自家用 (単発)	+	日米一貫教育課程入学資格 取得のための米国訓練費	+	国内提携校での訓練費 (卒業後)	¥6,400,000	¥27,771,445 (税込)
JCAB事業用 海外ライセンスサーBコース (P.11)						
FAA自家用 (単発)	+	国内提携校での訓練費		US\$21,300※2(¥3,195,000) [FAA自家用] + ¥ 27,226,288 (税込)		¥ 36,821,288 (税込)
FAA事業用・CFIコース (P.13)				US\$21,300※2(¥3,195,000) [FAA自家用] +		
FAA自家用 (単発)	+	FAA 計器飛行証明 (卒業後)	+	FAA事業用 (単発・多発) (卒業後)	+	
			+	FAA CFI (計器・多発含む) (卒業後)		
				US \$ 103,900※2(¥15,585,000) [FAA多発+FAA計器+FAA事業用+FAACFI]	¥6,400,000	¥25,180,000

※1 訓練期間の海外（米国）での滞在費用（寮費）を含みます（最短の滞在日数で算出）。国内提携校の滞在費用は含みません。

※2 1US\$=150円として換算

※3 国内訓練費は税込の金額です。



回転翼

取得をめざす資格				資格取得までの訓練費※1	4年間の大学授業料 【非課税】(640万円想定)	合計(概算)※3
JCAB事業用 国内ライセンスコース (P.5)						
JCAB自家用(ピストン) + JCAB事業用 (タービン)				¥19,684,500(税込)	¥6,400,000	¥26,084,500(税込)
JCAB事業用 海外ライセンスA・Bコース (P.9、11)						
FAA自家用 (タービン)	FAA自家用はJCAB自家用に書き換え可 (ただし、学科試験【法規のみ】の合格が必要)			US\$43,000※2(¥6,450,000)		¥12,850,000
JCAB事業用 海外ライセンスAコース (P.9)				US\$43,000※2(¥6,450,000) [FAA自家用]		
FAA自家用 (タービン)	+	日米一貫教育課程入学資格 取得のための米国訓練費		+		¥15,250,000
FAA自家用 (タービン)	+	日米一貫教育課程入学資格 取得のための米国訓練費	+	国内提携校での訓練費 (卒業後)	¥6,400,000	¥23,016,000(税込)
JCAB事業用 海外ライセンスBコース (P.11)						
FAA自家用 (タービン)	+	国内提携校での訓練費 (卒業後)		US\$43,000※2(¥6,450,000) [FAA自家用] + ¥10,193,700(税込)		¥23,043,700(税込)
FAA事業用・CFIコース (P.13)				US\$43,000※2(¥6,450,000) [FAA自家用] +		
FAA自家用 (タービン)	+	FAA事業用 (卒業後)	+	FAA CFI (卒業後) US\$75,265※2(¥11,289,750) [FAA事業用+CFI]	¥6,400,000	¥24,139,750

※1 訓練期間の海外（米国）での滞在費用（寮費）を含みます（最短の滞在日数で算出）。国内提携校の滞在費用は含みません。

※2 1US\$=150円として換算

※3 国内訓練費は税込の金額です。



固定翼 エアラインパイロット指定校推薦コース



ヒルズボロ空港



ヒルズボロ空港周辺



訓練費 約 375万円

【訓練費に含まれるもの】

FAA自家用 (単発) ライセンス取得 (第1期トレーニング) のための

- 63時間の飛行訓練費用 (Simulator含む)
- 座学費用
- 3ヶ月分の滞在費用 (食事は含まず)
※2名1室による寮滞在 (予定)
- フライトスクール入学金
- TSA Initial
- FAA flight & written examination – first attempt
- Accident & Health Insurance

約55万円
適性確認
フライト費用
(第2期トレーニング)

上記に記載されていない費用は含みません。一例として、FAA Medical Certificates取得費、ビザ取得費、フィンガープリント費用、訓練地(米国オレゴン州ポートランド)までの往復航空運賃、海外旅行保険代、任意加入の保険代、訓練滞在中の日々の食事代、航空身体検査受診費用、航空機操縦練習許可申請にかかる費用、テキスト代、教材費などは含みません。

※第1期トレーニング (米国で実施) 終了後の進捗確認 (第1次確認) に合格した方は、第2期トレーニング (国内で実施) 参加前までに本学が定める付加的な要件を含む航空身体検査相当の健康診断に合格する必要があります (航空身体検査相当の健康診断で不合格の場合、以降の訓練を継続することはできません)。

上記の訓練費とは別に航空身体検査相当の健康診断の受診費用 (15万円程度 ※再検査・追加検査費用は別途) が必要です。

※1US\$=150円として換算

※慣熟フライト (第3期トレーニング) 費用は別途必要です。

[全コース共通]

Q. 入学すれば、ライセンスは確実に取得できますか？

A. ライセンス取得にはさまざまな外部試験(筆記、口述、実技、適性検査等)をパスする必要があり、入学者全員が取得できるとは限りません。航空理工学専攻ではパイロットをめざす学生を全力でサポートしますが、個々の学生のたゆまぬ努力も欠かせません。

Q. JCAB事業用資格を取得すれば、必ず航空会社のパイロットになれるか？

A. 近年、航空業界はパイロットが不足しており、国内外の航空会社各社はパイロット確保に乗り出している傾向にあります。ただし、航空会社各社は独自の採用基準を設けて採用しています。このため、事業用資格を持っていたりも必ず航空会社のパイロットになれるとは限りません。

Q. コースの選択はいつでも行いますか？

A. 1年次後期に「翼」・「コース」の選択を行います。まずは1年次前期に、実際に固定翼機や回転翼機に搭乗し、翼の魅力を体感します。その後、各翼への知識を深め、学内に設置されているフライトシミュレーターでの体験等を経て、コースを検討することができます。

Q. 操縦訓練に参加するために必要な条件はありますか？

A. 航空理工学専攻で実施する操縦訓練は、国内外問わずすべての訓練コースで、本学独自のハイブリッド留学®プログラムを適用しています。したがって、操縦訓練に参加するには、ハイブリッド留学®プログラムの参加要件を満たすことが必要です。また、操縦訓練開始前(1年次12月頃)に「適性確認」をクリアすることが求められます。

[参考:ハイブリッド留学®プログラムの参加要件]

- ・1年次に35単位以上修得していること(卒業に必要な単位数に算入されていない科目を除く)
- ・1年次の必修科目すべての単位を修得していること(ただし、第4クォーターの「重積分」は除きます)
- ・心身共に健康で成績優良の者

※操縦訓練開始後においては、各年次の単位修得状況を確認しながら訓練の継続可否を判断していきます。単位修得状況が良好でない場合、在学中の訓練許可が出ない場合があります。

※入学後に当該年度の最新の「ハイブリッド留学®プログラムの参加要件」および機械理工学科が定める操縦訓練参加要件を必ずご確認ください。加えて、訓練コースごとに航空身体検査基準や英語能力証明の提出などを別途定めている場合があります。

Q. 大学在学中に事業用の資格まで取得できますか？

A. 固定翼の一部のコースでは、4年間で事業用まで取得できるカリキュラムを設定しています。ただし、3年次までの学業成績、飛行訓練状況等を踏まえて提携フライトスクールと大学が協議し、許可を得た学生のみが選択可能となっています。航空理工学専攻では、機械理工学科の卒業要件単位を修得する必要がありますから、それ相応の努力が求められます。また、さまざまな事情に対応できるよう、複数のコースを設定しています。

Q. 在学中にパイロットへの道を断念せざるを得なくなった場合、進級や卒業に影響はありますか？

A. 航空理工学専攻は、機械理工学科のカリキュラムをすべて履修したうえで、選択肢としてパイロットの資格取得ができるようになっています。どの年次で進路変更する状況になったとしても、学科のカリキュラムの単位を修得できれば、進級や卒業に影響はありません。

Q. 入学後、どのような学習がありますか？

A. 航空理工学専攻では、機械理工学科の卒業に必要な単位をすべて履修・修得した上で、操縦訓練を行うことができるようになっています。操縦ライセンス取得を目的とした単位を修得できる授業の設置はありませんが、提携機関による導入教育等の特別授業の実施や操縦ライセンス取得を補助する講座(FAA PPL渡米前座学特別講座など)を適宜設定しています。操縦ライセンス取得のための学習は、自学自習が基本となりますのでご注意ください。講座の設定は、参加する操縦訓練コースによって異なります。

Q. 飛行訓練の費用は全て一括で準備する必要がありますか？

A. その必要はありません。訓練ごとにその都度(コースによっては月次払い)、費用を支払うことになります。ただし、海外で操縦訓練を実施するコースを選択した場合、渡航時に必要となるビザ申請の際、海外提携フライトスクールに納める操縦訓練費用(総額)に加え、留学先での生活費など渡航期間中、支払い続ける能力があることを証明する証書(残高証明書)の発行(参加する訓練コースによって最低残高は異なりますが、少なくとも日本円で500万円以上の残高が必要)が必要となります。

Q. 健康状態に不安があるのですが、パイロットになれるか？

A. 航空機の操縦練習許可や操縦士の技能証明を受けるには航空法に定める基準に基づく「航空身体検査」に合格しなければなりません。将来、事業用操縦士(報酬を受けて操縦士としての業務に従事する場合)として航空機に乗務する場合、第1種航空身体検査証明の取得が必要になります。航空身体検査の基準を満たさないと、操縦士として航空機に乗務することができません。健康状態に不安がある方は出願前に航空身体検査指定医に相談されることを推奨します。また、入学時点で航空身体検査「第1種相当」適合であってもその後の第1種航空身体検査証明の取得を保証するものではありません。操縦士をめざす場合、生涯にわたり航空身体検査基準を維持できる健康水準が必要になります。

Q. 航空身体検査はどこで受診できますか？

A. 航空身体検査とは、航空業務に従事する人や航空機の操縦練習許可を受けようとする人が適切な心身の状態を保持しているかどうか、航空医学的な適性があるかどうかを判定するために実施される検査で、航空身体検査指定機関に所属する指定医により行われ

る検査です。受診可能機関は、国土交通省のWEBサイト内にある「航空身体検査指定機関一覧」で確認することができます。受診機関により異なりますが、受診は予約制の場合が多いため余裕を持って受診相談や申込を行ってください。また、航空身体検査受診後、検査証明書類の発行までに数週間を要する場合があります。

※航空身体検査受診の際は、大学の入学手続で①航空身体検査証明[第1種相当]の適合を証明する書類あるいは基準に適合する見込みがあることを証明する書類および②航空機操縦練習許可書の提出を求められていることを伝えてください。

○なぜ、航空身体検査証明[第1種相当]の適合を証明する書類あるいは基準に適合する見込みがあることを証明する書類が必要なのか？

航空機操縦練習許可書を取得するには、通常、第2種相当の航空身体検査を受診します。しかし、将来、事業用操縦士などの職業操縦士をめざす場合、必ず第1種の航空身体検査証明を取得しなければなりません。一般的に、事業用操縦士の国家試験に合格した後、第1種の航空身体検査を受診しますが、この段階で検査に合格(適合判定)できないと、これまでにたくさん費用と時間をかけたにもかかわらず、事業用操縦士などの職業操縦士になる道は閉ざされてしまいます。そうした事態にならないように、入学前に第1種相当の航空身体検査を受診し基準に適合することを確認しておく必要があります。入学前に第1種相当の航空身体検査に合格(適合)しても、予期せぬ病気や怪我などにより身体の状態が変化し、その後の航空身体検査で不合格になる場合もありますので、十分に注意してください。

※海外(米国)で操縦訓練を実施するコースを選択した場合、訓練実施国(米国)が定める基準の航空身体検査にも合格しなければなりません。

Q. 航空機操縦練習許可書はどのように入手すれば良いですか？

A. 航空身体検査受診の際、航空機操縦練習許可書を取得するために「航空機操縦練習許可申請書」も発行してもらうよう受診機関に伝えてください。航空機操縦練習許可申請は、航空身体検査の受診日から1ヶ月以内に申請しなければなりません。申請可能期間を過ぎてしまうと、再度、航空身体検査を受診しなければなりませんので注意が必要です。

[エアラインパイロット指定校推薦コース]

Q. 推薦資格取得とは具体的にはどのような資格が取得できるのでしょうか？

A. 日本航空㈱(JAL)が実施する自社養成パイロット採用試験を受験する際に、大学側からの正式な推薦を受け、同社の採用試験に応募することができます。この推薦状の提示により、採用選考プロセスの一部を省略することが可能となります。ただし、この推薦資格の取得は同社が実施する自社養成パイロット採用試験の最終合格・内定を確約するものではありません。

Q. 米国提携フライトスクールによる英会話能力確認試験とは具体的にどのような試験ですか？

A. 米国で航空機の操縦訓練を受ける際に外国人教官と問題なく意思疎通ができる水準の英会話能力があるかどうかをWEBを使い確認する試験です。この試験に合格できなければ本コースでは米国での訓練を受けることができません。

Q. 進捗確認(第1次確認)の合格後に実施される航空身体検査相当の健康診断とはどのような検査ですか？

A. 職業操縦士に求められる航空身体検査資格は通称第1種航空身体検査と呼ばれている資格ですが、その要件にさらに本学の定める付加的な要件が加わったものです。受診費用として15万円程度(再検査・追加検査費用は別途必要)が必要となります。

Q. 進捗確認(第1次確認)の合格後に実施される航空身体検査相当の健康診断で不合格となった場合、どうようになりますか？

A. 進捗確認(第1次確認)の合格者を対象に実施する航空身体検査相当の健康診断で不合格となった場合、第2期トレーニング以降の訓練に進むことはできません。その場合、JCAB事業用海外ライセンサーコースやJCAB事業用国内ライセンサーコースなど、エアラインパイロット指定校推薦コース以外の訓練コースに変更し、JCABライセンスの取得をめざすことになります。

Q. 適性確認フライトとはどのような訓練ですか？

A. 自家用操縦士ライセンスを取得後、日本国内における新たな環境での操縦体験を通して、日本航空㈱(JAL)自社養成パイロット候補生に求められる訓練の適性を総合的に判断することを主目的としています。

Q. 進捗確認(第1次確認)や適性確認(第2次確認)で不合格となった場合はどのようになりますか？

A. 本コースでは推薦資格取得までいくつかの資格、試験等をパスしなければなりません。その過程で一定の水準に達せず資格取得ができない、あるいは各試験に不合格となった場合には推薦資格の取得はできません。その場合、カリキュラム表に記載されている他のコースへ変更していただき、学習、訓練を継続し別の資格取得をめざすことができます。(その場合、訓練時間や訓練費用が増加します)

Q. 適性確認(第2次確認)に合格すると必ず日本航空㈱(JAL)のパイロットになれるか？

A. 適性確認(第2次確認)に合格し、本学から推薦資格を取得しても、日本航空㈱(JAL)が実施する自社養成パイロット採用選考の合格・内定を保証するものではありません。就職試験時に本学の推薦により日本航空㈱(JAL)が実施する自社養成パイロット採用選考を受験することが可能となりますが、それまでに、一定の英語スコアの取得や英会話能力の向上、良好な健康状態などが求められます。

自己推薦型選抜(他大学との併願可)

■入試日程

出 願 期 間 10/1^火～10/11^金 消印有効

試験日/試験会場 11/3^日 新宿キャンパス

合 格 発 表 11/15^金

入 学 手 続 11/27^水 消印・収納印有効

■選考方法/試験教科科目

選考方法	教科	科目(出題範囲)	時間	配点
基礎学力調査	数学	「数学Ⅰ(全範囲)」 「数学Ⅱ(全範囲)」	50分	100点
		「数学A(全範囲)」 「数学B(数列)」 「数学C(ベクトル)」		
	英語	「英語(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ)」	40分	100点
書類審査・面接(口頭試問を含む)				

■出願資格・条件

○高等学校もしくは中等教育学校後期課程を2025年3月卒業見込みの方
○担任より承認を受けた方 (併願可)
○高等学校もしくは中等教育学校後期課程の全体の学習成績の状況(評定平均値)が普通科、理数科で3.7以上、専門教育を主とする学科で4.2以上の方
○物理(物理基礎・物理)、数学(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C)を履修していること
○実用英語技能検定(英検)CSEスコア2050以上またはTOEIC®(L&R)スコア500点以上またはTOEIC®(L&R、S&W)スコア740点以上(いずれもスコアシート原本またはコピー提出)
※2023年2月以降に実施された英語外部試験に限り、有効とします。
○合格後、12/18(水)までに航空身体検査証明[第1種相当]の適合を証明する書類、あるいは基準に適合する見込みがあることを証明する書類を提出すること(コピー可)。
※2024年9月1日以降に受診・発行されたものに限る。
○合格後、12/18(水)までに航空機操縦練習許可書のコピーを提出すること。提出時までに交付が間に合わない場合は、航空操縦練習許可申請書のコピーを提出すること。
[注意事項] 出願資格・条件などの詳細情報は、出願前に必ず入試ガイドや本学入試サイト、入学試験要項でご確認ください。

■S日程(全学統一)

出 願 期 間 1/6^月～1/20^月

第 一 次 選 考 日 1/28^火

第一次選考合格発表 2/3^月

第 二 次 選 考 日 2/15^土～2/17^月
の指定日

第二次選考合格発表 2/26^水

入学金納入期限 3/5^水

学費等納入期限 3/10^月

■A日程(前期)

出 願 期 間 1/6^月～1/25^土

第 一 次 選 考 日 2/5^水～2/8^土

第一次選考合格発表 2/12^水

第 二 次 選 考 日 2/15^土～2/17^月
の指定日

第二次選考合格発表 2/26^水

入学金納入期限 3/5^水

学費等納入期限 3/10^月

■B日程(中期)

出 願 期 間 2/1^土～2/16^日

第 一 次 選 考 日 2/22^土

第一次選考合格発表 2/26^水

第 二 次 選 考 日 3/8^土～3/10^月
の指定日

第二次選考合格発表 3/18^火

入学手続書類提出期限 3/22^土

入学金・学費等納入期限 3/25^火

■M日程(後期)

出 願 期 間 2/17^月～3/2^日

筆 記 試 験 3/7^金

面 接 試 験 3/8^土～3/10^月の指定日

合 格 発 表 3/18^火

入学手続書類提出期限 3/22^土

入学金・学費等納入期限 3/25^火

■大学入学共通テスト利用 前期日程

出 願 期 間 1/6^月～1/17^金

第 一 次 選 考 日 本学での個別学力試験は行わない

第一次選考合格発表 2/12^水

第 二 次 選 考 日 2/15^土～2/17^月
の指定日

第二次選考合格発表 2/26^水

入学金納入期限 3/5^水

学費等納入期限 3/10^月

※国公立大学(合格発表日が3/11(火)～3/24(月)に限る)を併願している方に限り、3/25(火)まで学費等振込の延納を願い出ることが出来ます。

■一般選抜 入学試験科目

	入試種別	教科	科目	試験時間	配点		
第一次選考	S日程（全学統一）・ A日程（前期） 【3教科・3科目型】	数学	「数学（数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、数学A、B、C）」	1限(90分)	100点		
		英語	「英語（コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、英語表現Ⅰ、Ⅱ）」	2限(70分)	100点		
		理科	「物理（物理基礎、物理）」	3限(80分)	100点		
	大学入学共通テスト利用 前期日程 （3教科3科目型）	数学	「数学Ⅰ、A」＋「数学Ⅱ、B、C」			100点＋100点	
		外国語	「英語」リーディング	判定方式	「リーディング(100点満点)」を150点満点、「リスニング(100点満点)」を50点満点に換算し、計200点満点で判定する。	200点	
			「英語」リスニング				
		理科	理科	「物理」 「化学」	判定方式	いずれか1科目を判定の対象とし、200点満点に換算。 「物理」「化学」のうち、第1解答科目の得点を判定に用いる。	200点
	大学入学共通テスト利用 前期日程 （4教科4科目型）	数学	「数学Ⅰ、A」＋「数学Ⅱ、B、C」			100点＋100点	
		外国語	「英語」リーディング	判定方式	「リーディング(100点満点)」を150点満点、「リスニング(100点満点)」を50点満点に換算し、200点満点で判定する。	200点	
			「英語」リスニング				
		理科	理科	「物理」 「化学」	判定方式	「物理」「化学」のうち、第1解答科目の得点を判定に用いる。	100点
		国語	「国語」(近代以降の文章のみ) 判定方式 近代以降の文章(110点満点)を100点に換算し判定する。			100点	
		情報	「情報Ⅰ」				
	国語と情報から1教科1科目を選択						
	B日程（中期） 【3教科・3科目型】	英語	「英語（コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、英語表現Ⅰ、Ⅱ）」		1限(70分)	100点	
		数学	「数学（数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、C）」		2限(90分)	100点	
		理科	「物理（物理基礎、物理）」 「化学（化学基礎、化学）」		1科目を選択 3限(80分)	100点	
	B日程（中期） 大学入学共通テスト プラス型	英語	「英語」リーディング	判定方式	「リーディング(100点満点)」を150点満点、「リスニング(100点満点)」を50点満点に換算したうえで計100点満点に換算し判定する。		100点
			「英語」リスニング				
		数学	「数学（数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、C）」			2限(90分)	100点
		理科	「物理（物理基礎、物理）」 「化学（化学基礎、化学）」		1科目を選択 3限(80分)	100点	
	M日程（後期） 【2教科・2科目型】	英語	「英語（コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、英語表現Ⅰ、Ⅱ）」		1限(70分)	100点	
		数学	「数学（数学Ⅰ、Ⅱ、A、B、C）」		2限(90分)	100点	
		理科	「物理（物理基礎、物理）」 「化学（化学基礎、化学）」		1科目を選択 3限(80分)	100点	
英語と理科から1教科1科目を選択							
第二次選考		面接 等 ※複数日程で第一次選考を通過した場合でも第二次選考は一度のみの受験となります					

■出願資格・条件

○【S日程(全学統一)のみ】出願時に高校等の活動記録[高校等での生活や今までの間で、あなたが特に力を入れてきたこと(勉学・課外活動・その他)やそれを通して学んだこと・身についたこと]を記述(入力)すること(200字程度)。
○合格後、3/25(火)までに航空身体検査証明(第1種相当)の適合を証明する書類、あるいは基準に適合する見込みがあることを証明する書類を提出すること(コピー可)。
※2024年9月1日以降に受診・発行されたものに限る。
○合格後、3/25(火)までに航空機操縦練習許可書のコピーを提出すること。提出時までに交付が間に合わない場合は、航空操縦練習許可申請書のコピーを提出すること。
○右記の英語外部試験、検定試験のいずれかにおいて、基準スコア以上を保持していること。

【注意事項】各入試の詳細情報は、出願前に必ず入試ガイドや本学入試サイト、入学試験要項でご確認ください。

先進工学部 機械理工学科 航空理工学専攻の入学試験に関する情報は、工学院大学入試サイトでご確認ください。
<https://www.kogakuin.ac.jp/admissions/>



【お問い合わせ先】
アドミッションセンター(新宿キャンパス11F)
tel : 03-3340-0130
e-mail:nyushi@kogakuin.ac.jp

航空理工学専攻提携校

JCAB資格取得のための国内提携校

本田航空株式会社

飛行訓練地：大分空港(大分県国東市)

1964年に創立された日本最大規模のフライングスクールとして、古くから教育事業に取り組み、数多くのプロフェッショナルを輩出。質の高いカリキュラムを通して、飛行技術だけでなく、操縦士として必要なコミュニケーションスキルを身につけます。

★ Oita



Honda Airways

第一航空株式会社

飛行訓練地：八尾空港(大阪府八尾市)

第一航空は1966年に設立された大阪府八尾空港を活動拠点に、小型操縦訓練事業や航空輸送事業を行っています。小型機の利用実績が日本一の八尾空港にて訓練を行っており、これまでに100名以上のパイロットを輩出した実績を持ちます。官公庁からの受託訓練でも高い評価を得ている会社です。

★ Osaka



First Flying

開設コース

- ・JCAB事業用国内ライセンスコース
- ・JCAB事業用国内ライセンス指定養成コース
- ・JCAB事業用海外ライセンスAコース
- ・JCAB事業用海外ライセンスBコース

開設コース

- ・JCAB事業用国内ライセンスコース
- ・JCAB事業用海外ライセンスAコース
- ・JCAB事業用海外ライセンスBコース

開設コース

- ・エアラインパイロット指定校推薦コース
- ・JCAB事業用海外ライセンスAコース
- ・JCAB事業用海外ライセンスBコース
- ・F A A 事業用・C F I コース

海外資格取得のための海外提携校

Hillsboro Aero Academy ★ Oregon

飛行訓練地：ヒルズボロ空港(アメリカ・オレゴン州)

オレゴン州ヒルズボロに本部を置く西海岸最大のフライングスクール。日本人教官も在籍し寮も完備しており、安心して学ぶ環境が整っています。



Hillsboro Aero Academy

設備

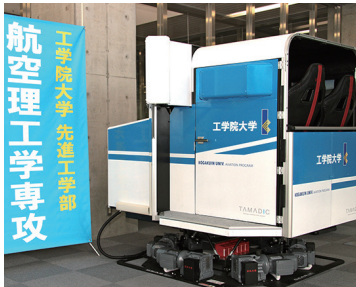
キャンパス内でも訓練が積める！

八王子キャンパスに3台のフライトシミュレーター

実機訓練期間以外の時期や、卒業後でも、八王子キャンパスではフライトシミュレーターを使用した訓練ができます。固定翼複座1台(6モーション)、回転翼複座1台(6モーション)、固定翼単座1台(4モーション)を設置。資格取得に向けて、確実なステップアップが可能です。



回転翼複座FTD



固定翼複座FTD

日本航空(株)(JAL)との連携による高品質な養成課程でエアラインパイロットをめざす

エアラインパイロット 指定校推薦コース

1年次 11-5月
海外提携フライトスクールが実施する英会話能力確認試験合格後、渡米までの期間、FAA自家用ライセンス取得のための学科試験対策や英語学習を各自で実施（訓練コースごとに特別授業等を実施する場合があります）

2年次 6-8月
先進工学部
ハイブリッド留学[※]

本コース申込および推薦資格取得に際しての重要注意事項（必要条件）

【必須条件】

- 1年次9月までにTOEIC® Listening & Reading Test 500点以上を取得すること（証明書提出）。
- 1年次11月までにTOEIC® Listening & Reading Test 600点以上を取得すること（証明書提出）。 ●1年次12月に米国提携フライトスクールが実施する英会話能力確認試験に合格すること。
- 2年次12月までにTOEIC® Listening & Reading Test 750点以上を取得すること（証明書提出）。
- 2年次5月までにケンブリッジ英語検定リンガスキル（ジェネラル）のスピーキングテストでCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）レベルB1以上を取得すること。
- 3年次12月までにTOEIC® Listening & Reading Test 800点以上を取得すること。
- 4年次の日本航空(株)(JAL)が実施する自社養成パイロット採用選考受験時までに、TOEIC® Listening & Reading Test 850点以上を取得すること（証明書提出）。

【推奨要件】

- 資格取得のための飛行訓練および各種試験（筆記・口述・実技・無線等）はすべて英語で行われ、かつ、渡航前の事前教育も英語が主となるなど、相当の英語力が求められるため、渡航前より推奨英語能力レベル★を設定しています。
- 2年次5月までにTOEIC® Listening & Reading Test 700～750点程度を取得すること。
- 2年次5月までにケンブリッジ英語検定リンガスキル（ジェネラル）のスピーキングテストでCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）レベルB1以上を取得すること。
- 3年次12月までにTOEIC® Listening & Reading Test 800点以上を取得すること。
- 4年次の日本航空(株)(JAL)が実施する自社養成パイロット採用選考受験時までに、TOEIC® Listening & Reading Test 850点以上を取得すること（証明書提出）。

- 訓練時間・期間は天候および個人の技量等により変動する場合があります。また、記載の飛行訓練時間は、あくまで平均的な訓練時間です。訓練時間は修得状況により個人差があり、追加費用が発生する場合があります。
- 留学時の米国や米国連邦航空局、提携フライトスクールおよび海外情勢、提携エアライン等の事情により実施できない場合があります。*
- 渡航に際し、ビザの取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。*
- 渡航の際に必要なビザ申請において、操縦訓練費用（総額）や滞在期間中に必要な生活費など、米国滞在中のあらゆる費用を賄う充分な資金があることを証明する預金残高証明書の提出が必要です。
- 渡航（米国内での操縦訓練）に際し、FAA Medical Certificates (3rd class以上) の取得が必要です。診断書の取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。*
- 渡航（米国内での操縦訓練）に際し、Flight Training Security Program (FTSP) にフライトトレーニングの許可申請が必要です。飛行許可が下りない場合は本コースで訓練を受けることができません。*
- 所定のトレーニング期間内に指定されたライセンスの取得ができない場合、コースアウトとなる場合があります（その場合、他の訓練コースに移行して資格取得をめざすことになります。これに伴い訓練費用は増額となります）。
- 進捗確認（第1次確認）に合格しても、その後実施する訓練継続のための面接試験および本学が定める付加的要件を含む航空身体検査相当の健康診断に合格できない場合、コースアウトとなります（その場合、他の訓練コースに移行して資格取得をめざすことになります。これに伴い訓練費用は増額となります）。
- 記載の飛行訓練内容、飛行訓練時間・期間および訓練費は、2024年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。
- その他、渡航先の入国条件がクリアにならない場合には、本コースは継続できません。
- 推薦資格取得者であっても日本航空(株)(JAL)が実施する自社養成パイロット採用選考の合格・内定を保証するものではありません。

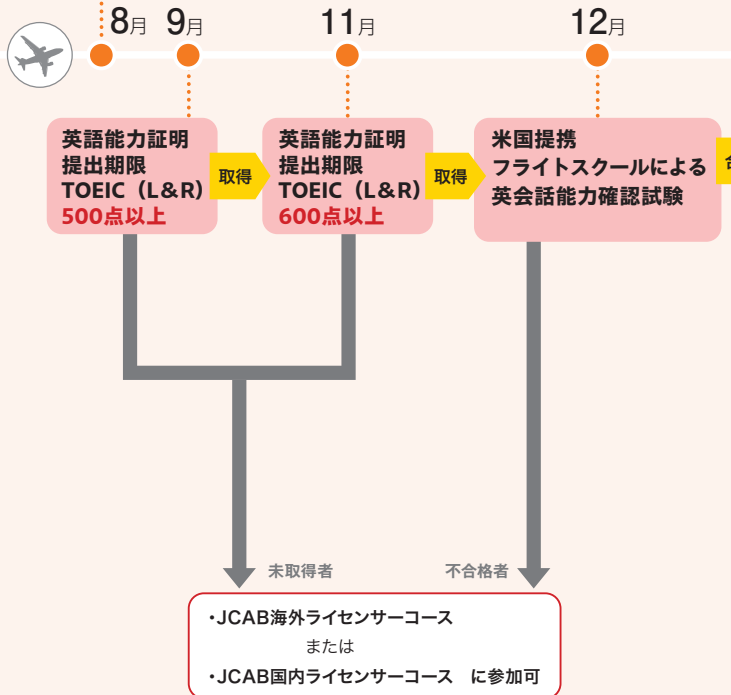
※そのような場合、国内ライセンスコースを活用しての資格取得をめざすことになります。これに伴い訓練費用は増額となります。

取得できる免許・資格

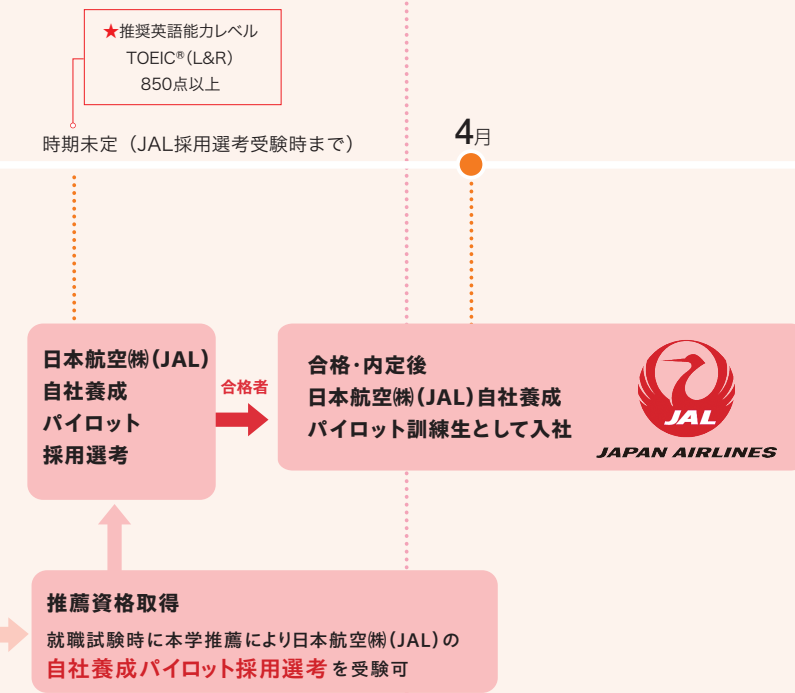
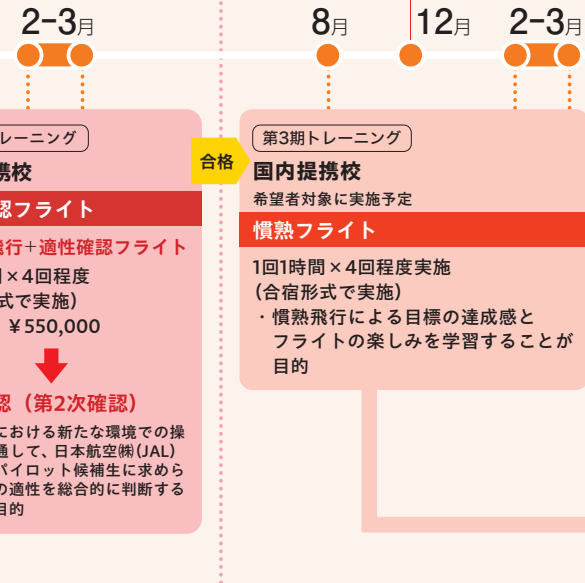
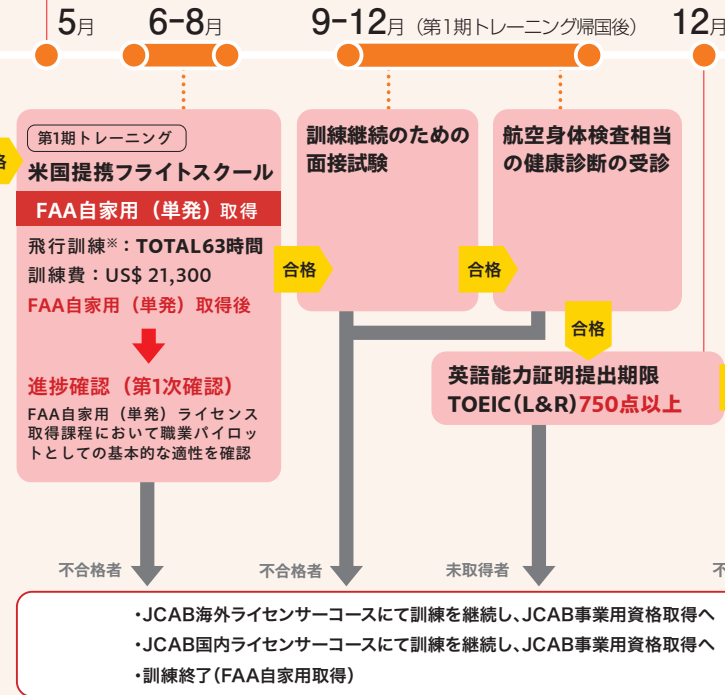


■FAA自家用資格

飛行操縦体験（任意参加）
実際に飛行教官が操縦する飛行機やヘリコプターに同乗し、フライトを体験。まずは、空を飛ぶということを身体で感じます。



★飛行訓練参加に伴う推奨英語能力レベル TOEIC®(L&R) 700～750点程度 + ケンブリッジ英検リンガスキル（ジェネラル）のスピーキングテストで CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）B1以上



※ 飛行訓練には飛行訓練装置による訓練時間を含みます。また、資格取得の課程で学科教育があります。

本コースの特徴

※詳細は「本コース申込および推薦資格取得に際しての重要注意事項（必要条件）」をご確認ください。

POINT 1

日本航空(株)(JAL) とともに設計したコースで高品質な訓練を受けられる！

POINT 2

米国（FAA）の自家用操縦士ライセンスを取得し適性確認フライト（適性確認）に合格すると本学推薦により日本航空(株)(JAL) の自社養成パイロット採用選考に挑戦できる！

POINT 3

圧倒的に低く抑えた訓練費で本コースをチャレンジできる！



Message

エアラインパイロットをめざす皆さん、
工学院大学の優れた教育、訓練環境の
下で将来の夢を実現しましょう！

エアラインパイロットの能力は、単にライセンスを取得するための知識、技量のみならず、飛行中に起こりうるさまざまな脅威（Threat）に対して、タイムリーに対抗策（Countermeasure）を講じるための「コミュニケーション能力」が必要です。このコミュニケーション能力は、普段の生活の中でのちょっとした意識の変化からも身に付けることが可能です。工学院大学の優れた教育環境の下で、飛行機を飛ばすことの楽しさを一緒に学びましょう。本プログラムを卒業される皆さんと、将来世界中の空でお会いできるのを心より楽しみにしています。